

「第10回現代ガラス展 in 山陽小野田に係る業務委託」に関する プロポーザルの審査について

1 「現代ガラス展 in 山陽小野田」とは

セメントのまちからガラス芸術のまちへ。山陽小野田市はセメントに代表される窯業のまちとして発展してきました。古代には「須恵器」の生産地として賑わい、明治になると「硫酸瓶」など製陶業が盛んになりました。明治14年には国内初の民営セメント会社が設立されています。

窯業を伝承しつつ新しい市の文化を創造し、全国へ発信するために、本市出身のガラス作家である竹内傳治氏と、窯業のひとつであるガラスに注目し平成12年に「日本の現代ガラス展」を開催したのが、ガラスのまちの始まりです。翌年からは公募展「現代ガラス展」を3年に一度開催しており、令和8年度には第10回展を迎えます。

この「現代ガラス展」は竹内氏の遺志を受け、応募資格に45歳以下という年齢制限を設けており、今では若手ガラス作家の登竜門的コンペティションとして全国的にも知られています。

本ガラス展の開催にあたり、商工会議所や文化協会などの各団体からなる実行委員会を立ち上げ、更に、ガラスに関心が深い市民による推進委員会を組織し、企画・運営を担っています。また、ガラス作家の野田雄一氏にはスーパーバイザーとして展示やデザインを中心に関わっていただきます。市民とガラス作家、関係団体、市が協力することで「ガラスアートのまち山陽小野田」をより発展させることができると考えています。

2 選定方法

公募型プロポーザル方式

3 最高得点者

株式会社ヨシイ・デザインワークス

4 審査の経緯

(1) プロポーザル公募開始	1月 5日 (月)
(2) 参加表明書の提出期限	2月 3日 (火)
(3) 企画提案書等の提出期限	2月17日 (火)
(4) 審査 (プレゼンテーション)	3月 2日 (月)
(5) 受託候補者の決定	3月 5日 (木)

5 プロポーザル参加事業者数

3社

6 審査方法

審査委員7名が採点を行うこととし、審査表により、審査項目ごとに審査基準に基づき採点を行う。審査委員の採点は、1人当たり、合計180点の配点とする。なお、総得点は、あらかじめ事務局が採点した得点(合計20点)も含めることとし、合計200点とする。

- (1) 審査委員が審査表に基づき各細番ごとに付けた採点の合計を得点とする。ここに、事務局が採点したものは含めない。
- (2) 審査委員全員の得点の合計をその人数で除して、平均点を算出(小数点以下四捨五入)したものを、審査委員の得点とする。
- (3) (2)に事務局が採点したものを加えて提案者の総得点とする。